

(第3種郵便物認可)

NPO きょう西区で催し 収益を寄付

「かけはし」のスタッフTシャツを掲げる代表の富岡さんと副代表の坂本さん＝中日新聞社で



カンボジアの子らを笑顔に

「笑顔の輪を広げたい」。そんな思いを抱く市内の保健師富岡ひとみさん(四三)と会社員坂本雅史さん(四九)らが二十三日、秋祭りを楽しみながら国内やカンボジアの子どもたちを援助できるイベントを西区で開く。

食育や育児支援を長年続ける富岡さんは「仕事柄、いろんな家庭や環境の子どもを見てきた」。坂本さんは「自分は貧乏で育ったから、子どもに笑顔を与えたい」と、七年前からサンタクロースに扮してクリスマス

マにプレゼントを届けてきた。

「何かできることはないか」。以前から知り合いだった一人の思いが一致し、三年前から、県内の児童支援施設などでクリスマス会を協力して開き始めた。共通の知人がカンボジアの子どもを支援していることに共感し、現地の子どもの交流会も続けている。今年三月、「きちんと形にして、活動を広めたい」と、市内やカンボジアの子どもたちを支援するNPO「かけはし」も結成した。

秋祭りはNPOの主催で、枇杷島コミュニティセ

ンター(西区枇杷島五)で午後一時四十五分～四時十五分に開く。輪投げや射的など四種類のゲームで遊べるほか、カンボジアの子どもがパッケージを描いたチョコレートの販売もある。

入場料二百円。収益の一部は、カンボジアの児童養護施設や国内の子ども食堂などに寄付される。「子どもでも、自分の行動が支援につながったと実感できるように」とワンコインで買える商品も用意。「笑顔や優しさの『かけはし』になりたい」と願いを込めた。

(鈴木沙弥)